



教師を目指す学生による「学生文化」「学校文化」の創造と
新たな「学生と学校のWin-Winの関係」の構築

東浦町SP通信

～東浦町では、学生ボランティアを“職員の仲間”という思いを込めて、
「SP」または「スクールパートナー」と呼んでいます。～

第 20 号

2024 年 2 月 15 日

編集 緒方 なな
東浦町教育委員会
SPコーディネーター

東浦中学校 テスト前学習会

2月7日（水）、東浦中学校でテスト前学習会が開催されました。今年度は定期テスト前に5回開催され、今回が今年度最後の学習会でした。この学習会は、翌日以降の定期テストに向けて、授業後に生徒が自主的にテスト勉強をする会です。この日は、SPさんが3人参加してくれました。自分たちの専門の教科や得意な教科でない教科を勉強している生徒もいましたが、3人とも柔軟に対応してくれました。



山口SPは、東浦中のウィークリーSPとして活動しており、この日も午前中から活動していました。2年生を担当していましたが、教室に入った時、一瞬どこに山口SPがいるのかわかりませんでした。生徒と同じ目線で、横に座って支援していたからです。人との距離をつめるのがとっても上手な山口SP。生徒ともすぐに打ち解けて、話し合いながら問題に取り組んでくれていました。

笠松SPは、1年生を担当しました。笠松 SP の専門教科である社会の問題について、さっそく生徒から質問を受けていました。白紙に大きく地図を描きながら、「こうだね？OK？」と生徒の様子を確認しながら解説していました。今年度の「冬休みわくわく算数教室」を経て、町内の他の学校のSP活動にも積極的に参加をしてくれています。これからも現場でたくさんのことを学んでいってもらえたらと思います。



瀬瀬SPは、普段片葩小でウィークリーSPとして活動してくれています。物腰が柔らかく、明るく優しい瀬瀬SPは片葩小の子どもたちから大人気！中学生にも笑顔でスツと近付き、丁寧に解説をしてくれていました。中学生の真剣な雰囲気も崩さず、それでいて質問しやすい空気を作って上手にサポートする瀬瀬SP、素晴らしいかったです。

中学校でのSPさんの支援を見ていると、やはり専門教科の知識は大切だなあと改めて感じます。自分が解くことはできても、それを“言語化して伝える”ことは難しいですね。私自身、英語が専門教科ですが、自分が問題を解く分には「なんとなく」「感覚的に」分かることがたくさんあります。でも、子どもたちに「なんとなく分かるでしょう？」と言っても、分かるはずがありません。

加えて、今は“教師が教える教育”から“子どもが学ぶ教育”になってきています。“子どもが学ぶ”ためには、以前のように教師がこんこんと説明して教えてはいけません。その子がどこでつまづいているのかを“見極め”、その子自身で解決していけるように“支援をする”ことが必要です。支援をすることは、ただ教えることより難しいことのように思います。自分の分かっている「なんとなく」「感覚的に」を、どう言葉にするのか……。教員採用試験に向けて、中学・高校の教員を目指すSPさんは専門教科をたくさん勉強すると思いますが、「こんな質問をされたら、自分ならどうするか」と一歩立ち止まって考えてみることも、より深い教科の理解につながるのではないかと思います。また、SP活動では、多くの先生方の指導も直接見る機会がたくさんあります。自分にはない引き出しを盗むチャンスです！その引き出しも、普段から自分で深く考えているからこそ、「なるほど、こんな切り口があるのか」と気づけると思います。多くの先生方の指導を間近で見られるのは、SP活動の大きな魅力だと思います。SP活動も上手に利用しながら、専門知識を深めてもらえたらと思います。



余談ですが、私は算数・数学が大の苦手です。昨日、中学2年生のこの問題を見て、私は固まりました。みなさんなら、どのようなアプローチで生徒が理解できるように支援しますか？ぜひ緒方に教えてください！

